

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	墨田区中川南保育園
施設所在地	墨田区立花6-8-2-106

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『子どもも大人もわくわくする四季を感じられる園庭作り』
～園庭環境を充実させていこう！～

<テーマの設定理由>

中川南保育園では、区内でも有数の園庭の広い保育園である。しかし、固定遊具の老朽化により『ジャングルジム』『すべり台』が撤去となりガラとした園庭になってしまった。そこで、園庭の広さを生かし、子どもたちが好奇心や興味を持ってわくわくしながら遊び、学ぶことのできる園庭作りをしようと、保育者全員で考えることにした。

2. 活動スケジュール

- 5/21 どんな園庭にしたいか意見を出し合う「子どもたちが安全に、好きなものを選んで遊べる環境を作ろう」ということになる。
- 6/2 テーマを決定し、「具体的にどのように進めていくか」を考え、安全でいろいろな自然に触れられる環境を作るために、植え込みを耕し、種まきを行う。
- 6/30 園庭改造に詳しい先生に話を伺ったり、他の幼稚園や保育園の園庭を見学し参考にしながら考えていった。
- 11/27 “からふる号”(車のボディが黒板になっており、チョークで描くことができる。様々な遊具で体を動かしてあそぶことができる。)を呼び、活動
- 12/17 購入した道具の保管方法や保管場所、扱いについて話し合い、園庭整備を行う。
- 3/5 “からふる号”の活動

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

子どもたちが自然に触れ、学べる環境を整えていった。

- ・植物や土、肥料、花壇の土どめ・プランター
- ・ワゴン棚・テーブルセット
- ・顕微鏡・手押し車・観察器・キッズカメラ・スケール・ポケット図鑑・スポット・すり鉢
- ・透明バケツ・虫眼鏡・泡だて器・計量カップ・ロート

様々な遊びと素材、道具を積んだ“からふる号”を招き、アスレチックや昔遊び、大型積み木などの遊びの場を設定。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

植物を育て、多方面から観察を楽しみ、興味を広げていった。見た目からはわからなかった感触や匂い、色水の面白さなど色々な経験や発見がわくわくを広げていった。

“からふる号”の活動に参加し、様々な遊びを設定した。この活動をきっかけに、運動遊びや昔遊びを楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

栽培物や雑草をままごとあそびに取り入れたり、手にすることで「これはなんだろう？」と形の違いに気付いたり、詳しく調べてみたりと会話が広がっていった。園庭にある栽培物や雑草の他にも、花びらを摘んで色水を作り、違った色を混ぜて色の変化を楽しんだり、感触を感じ、匂いを嗅ぎ、違いを確かめていた。花びらを使って、押し花を作り、シール作りやしおりを作るなどの遊びへ発展していった。その際、道具の扱いを知らせることで更に興味を広げ、「これちょうだい」「貸して」「やってみたい」など子どもたちからの発信で楽しんでいた。

「からふる号」の車体に「お絵かき」、「大きな積み木を使っての遊び」、体のバランスをとりながら遊ぶ遊具や高さのある遊具に、自分からチャレンジしていた。「コマ」や「けん玉」などの遊びにも子ども達は、興味を持ち参加していた。中でも「コマ」はすぐには回せず、プレーリーダーに教えてもらい夢中でチャレンジしていた。数日後、子どもたちから「コマをまわしたい」という声があがり、保育園でのコマあそびがスタートした。どうやったらコマを回せるか（ひもの巻き方、コマの投げ方など）を子どもたち同士で教え合い、工夫しながらチャレンジしていた。コマを回せるようになった子は「教えてあげよ！」と『コマせんせい』になって友だちにコツを教え、回せる子がどんどん増えていった。成功すると「やった～」「すごい！」と自分のことのようにみんなで喜びあっていた。お正月遊びでは、年下の子どもたちに教える姿も見られ、異年齢の関りも深まった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

土おこしや植物の栽培などは経験していたが、すくわくの活動を通して、更に植物や自然に目を向けるようになり、自分でやってみよう、調べてみようとする姿が広がりつつある。引き続き保育者は、子どもたちと植物を大事に育て、発見や気づきに共感していきたい。

また、園庭環境の充実、四季を感じられる園庭作りを目指していきたい。「からふる号」の活動では、いろいろな遊具での遊びを経験し、体を動かす遊びに意欲的に取り組む姿が多くみられるようになった。日常とは違う遊具を設定することで、子どもたちの興味や関心、やってみたいと思う気持ちが大きく膨らんだ。自ら取り組みたくなる環境の設定を、今後も考えていきたい。コマまわしは、プレーリーダーの存在があこがれの対象となり、すぐにできなくても、粘り強く取り組む姿にもつながった。その後、友だち同士で教え合い励まし合うなど、子どもたち同士年齢を超えた関りも広がっていった。